

---

# 蝶の行方

七浦彩

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

蝶の行方

### 【Zコード】

N6138A

### 【作者名】

七浦彩

### 【あらすじ】

直のもとに姉の杏子が帰ってきた

長いこと東京に暮らしていた、姉の杏子が帰ってきた。

自由奔放というのはこの人のための言葉と直は思ひ。帰つてくるのも、出てゆくのも、すべて自分の思いのままで。

やけに、輝いて見えた。

「姉が帰つて来たと言うのに、いつまでもうかない顔をして」杏子は化粧の濃くなつた顔でにいつと笑つた。化粧が剥がれ落ちるぞと直が言うと、その顔のままコブラツイストをかけてくる。ぎりぎりと締め上げられる痛みに、名称も知らない香水の香りが追加されたのに、直は気づいた。

ああ、杏子は、あれだ 声に出さずに、直はその言葉をきゅうと噛みしめた。杏子は、なんだか蝶に似ているな。

きれいな羽で着飾つて、甘い香りに誘われる。自身も誘い、惑わせて、みつをたっぷり吸い上げる。

だが蝶はきれいなだけではない。その鮮やかな色彩の裏に、柔らかで、傷つきやすい、生身のからだが潜んでいる。そのからだは指で弱く押しただけで、潰れてしまうだろひ。

すぐに消えるいのちだからこそ、うつくしいのかもしれない。儚いからこそ、田を惹くのかも。

自由なままでいられる時間は、本当に短いものだから

香水の香りが離れた。杏子が、目を細めて、天井の方を見ていた。ちろちろと奔放に、ひとの住みかに進入した、一匹の黒あげは。

「あたしに似てると思わない?」杏子の問いに、直は笑つて肯定した。よおく似てるよ、と言つてから、もう一言付け足した。

「ただし、勝手なとこだけな」

直は海老固めの実験台となつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6138a/>

---

蝶の行方

2010年12月14日20時54分発行